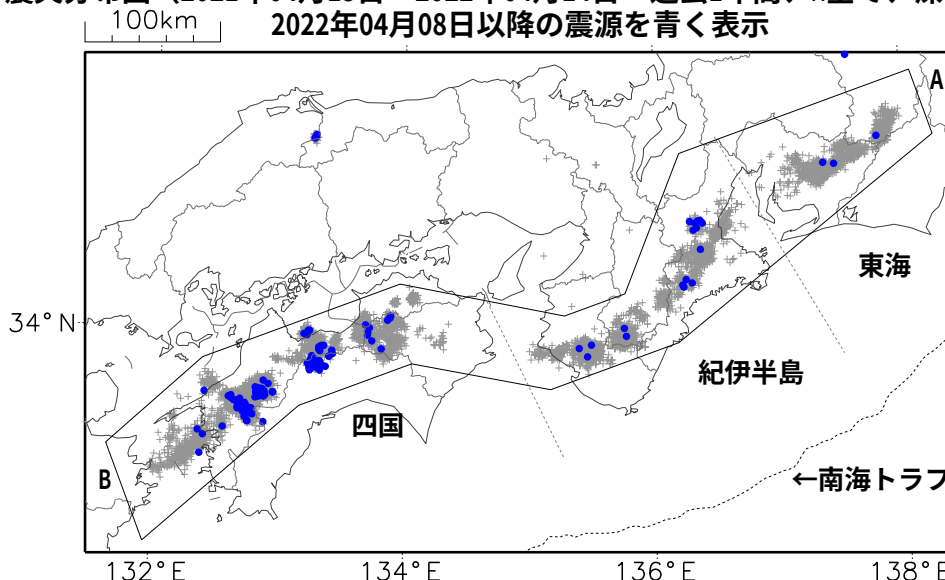


深部低周波地震（微動）の活動状況

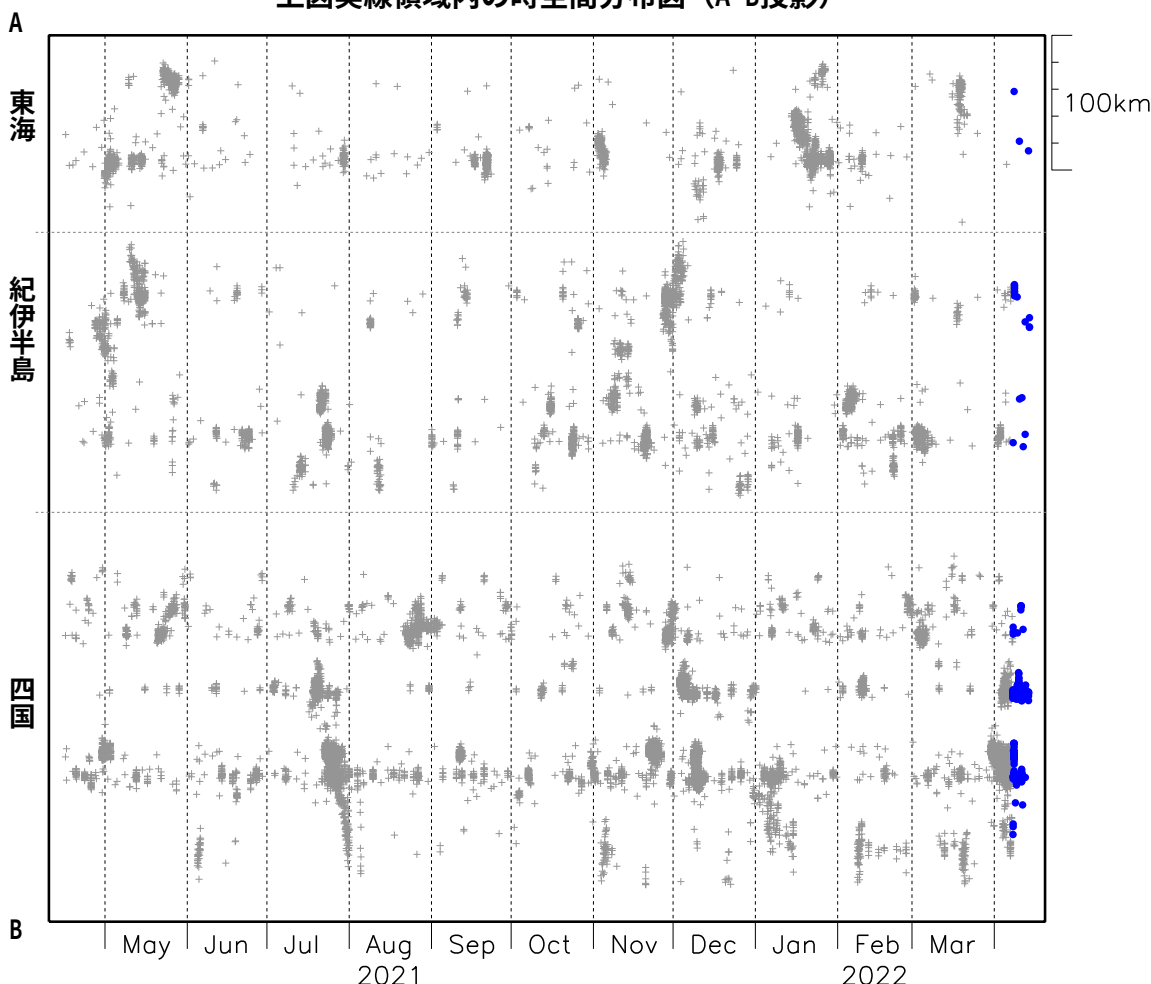
深部低周波地震（微動）活動が見られる時は、その活動場所とほぼ同じ場所で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界がゆっくりすべっている（短期的ゆっくりすべり）と推定されるため、深部低周波地震（微動）活動はプレート境界の状態変化の監視にとって、重要なデータの1つである。同じ場所での深部低周波地震（微動）活動は、数日～1週間程度継続することがあり、数ヶ月から1年程度の間隔で繰り返し発生している。「短期的ゆっくりすべり」「深部低周波地震（微動）」についての詳しい解説は、気象庁ホームページ（<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/nteq/nteqword.html>）をご覧ください。

震央分布図（2021年04月15日～2022年04月14日：過去1年間、M全て、深さ全て）
2022年04月08日以降の震源を青く表示



震央分布図の黒の実線は、短期的ゆっくりすべりに伴う深部低周波地震（微動）が定常的に観測されている領域を示す。

上図実線領域内の時空間分布図（A-B投影）



深部低周波地震（微動）の発生場所や短期的ゆっくりすべりの発生状況についての詳細な解析結果は、毎月開催している「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会」のページ(<https://www.jma.go.jp/jma/press/hantei.html>)に掲載しておりますので、ご利用ください。

国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。